

U.S. Indicators

発表日: 2024年1月4日(木)

米国 製造業の緩やかな縮小継続(12月ISM製造業)

～製造業の調整期間は長期化し、ITバブル崩壊後の記録に近づく～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:050-5474-7493)

23年12月のISM製造業景気指数(季節調整値)は、47.4(前月46.7)と前月から0.7%上昇し、市場予想中央値47.1(筆者予想47.0)を上回るペースで米製造業の調整幅が縮小したことを示した。一方、縮小した業種は18業種中16業種(前月13業種)と増加、幅広い業種の縮小が示された。

ISM製造業景気指数は、世界経済の減速を背景に、拡大縮小の分岐点である50を14ヵ月連続で下回っており、調整期間がITバブル崩壊後に記録した18ヵ月に迫っている。ただし、底堅い国内需要等を背景に当時よりも落ち込みが小さく、製造業は深刻な調整を回避している。

12月の構成項目別の前月からの変化では、新規受注、在庫が低下した一方、生産、入荷遅延、雇用が上昇した。構成項目別の総合指数への寄与度をみると、新規受注が前月比▲0.24%pt、在庫が前月比▲0.10%ptの押し下げ寄与となった一方、雇用が前月比+0.46%pt、生産が前月比+0.36%pt、入荷遅延が前月比+0.16%ptの押し上げ寄与となった。

12月の構成項目の水準をみると、新規受注、在庫、入荷遅延、雇用が50を下回った一方、生産が50を上回った。新規受注、在庫が需要の鈍化や景気の先行き懸念を背景に50を下回っているほか、入荷遅延は供給制約の改善や需要の鈍化によって50を下回っている。雇用は3ヵ月連続で50を下回っており、これまで調整を回避してきた製造業雇用の減少が示唆された。雇用の縮小した業種数は、18業種中9業種(前月9業種)となった一方、拡大した業種は、非鉄、輸送機器、化学の3業種(前月3業種)にとどまった。

一方、生産は米自動車メーカーでのスト終了により輸送機器主導で再び50を上回った。ただし、生産の縮小した業種数が18業種中13業種、生産の拡大した業種は、輸送機器、食品・飲料・タバコ、一次金属の3業種にとどまっており、力強さに欠ける。

サブ項目では、輸出受注DIが49.9(前月46.0)と上昇し、輸出の減少に歯止めがかかりつつあることを示した。一方、輸入DIは46.4(前月46.2)と低い水準にとどまっており、輸入が前月とほぼ同じペースで減少していることを示した。

インフレの動向を示す仕入価格指数は、45.2(前月49.9)と再低下し、財価格の下落幅拡大を示した。商品別では、スチール、電子部品、派遣労働、ポリピレン等が上昇した一方、アルミニウム、段ボール箱、鉄鋼製品、原油、ディーゼル等が下落した。供給不足品では、引き続き電気部品、電子部品のほか、半導体、熟練労働者などが挙げられた。

I S M製造業景気指数

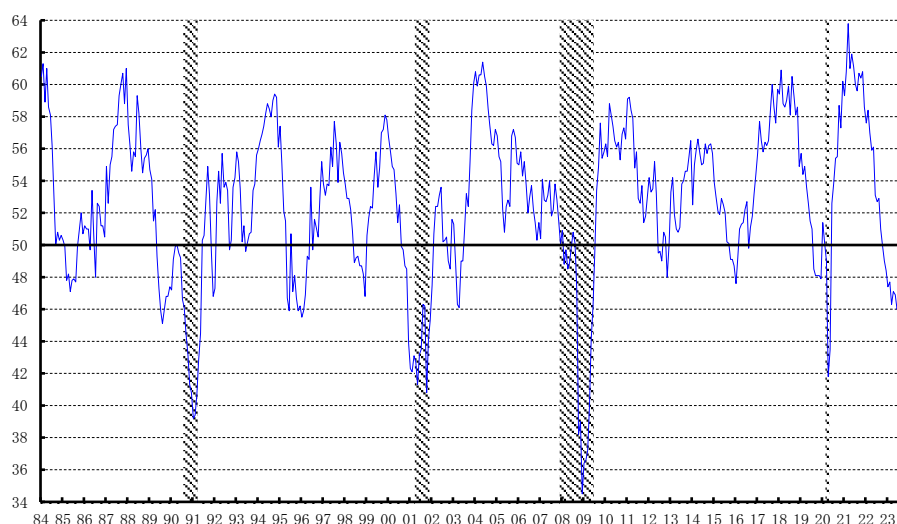
	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
23/01	47.4	42.5	48.0	50.6	50.2	45.6	43.4	44.5	49.4	47.8
23/02	47.7	47.0	47.3	49.1	50.1	45.2	45.1	51.3	49.9	49.9
23/03	46.3	44.3	47.8	46.9	47.5	44.8	43.9	49.2	47.6	47.9
23/04	47.1	45.7	48.9	50.2	46.3	44.6	43.1	53.2	49.8	49.9
23/05	46.9	42.6	51.1	51.4	45.8	43.5	37.5	44.2	50.0	47.3
23/06	46.0	45.6	46.7	48.1	44.0	45.7	38.7	41.8	47.3	49.3
23/07	46.4	47.3	48.3	44.4	46.1	46.1	42.8	42.6	46.2	49.6
23/08	47.6	46.8	50.0	48.5	44.0	48.6	44.1	48.4	46.5	48.0
23/09	49.0	49.2	52.5	51.2	45.8	46.4	42.4	43.8	47.4	48.2
23/10	46.7	45.5	50.4	46.8	43.3	47.7	42.2	45.1	49.4	47.9
23/11	46.7	48.3	48.5	45.8	44.8	46.2	39.3	49.9	46.0	46.2
23/12	47.4	47.1	50.3	48.1	44.3	47.0	45.3	45.2	49.9	46.4

(出所) I S M : the Institute for Supply Management

12月は、全18業種のうち一次金属のみの拡大にとどまった(11月3業種:下線は拡大・縮小が2カ月以上続いたことを示す)。主要6業種で成長した業種はゼロだった。一方、縮小した業種は、印刷・関連サポート活動、アパレル・皮革製品、プラスチック・ゴム製品、一般機械、非鉄、繊維、石油・石炭、紙製品、木材製品、加工金属、コンピューター・電子機器、その他製造業、家具・同関連、電気設備・部品、輸送機器、化学製品の16業種と11月の14業種から増加した。食品・飲料・タバコは前月と変わらずとなった。

先行きに関して、金利の大幅な上昇による需要鈍化の影響によって、24年半ばにかけて製造業部門は調整を継続すると見込まれる。しかし、米自動車メーカーでのスト終了を受けた生産回復が期待できるほか、在庫調整の進展を背景に、製造業部門は徐々に調整幅を縮小すると予想される。

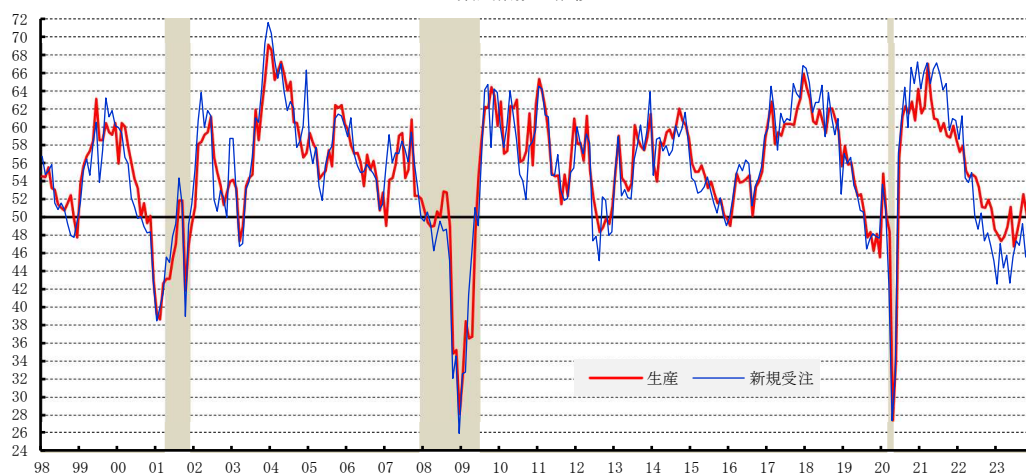
I S M製造業景気指数の推移



(出所) I S M

(注) シャド一部は景気後退期。

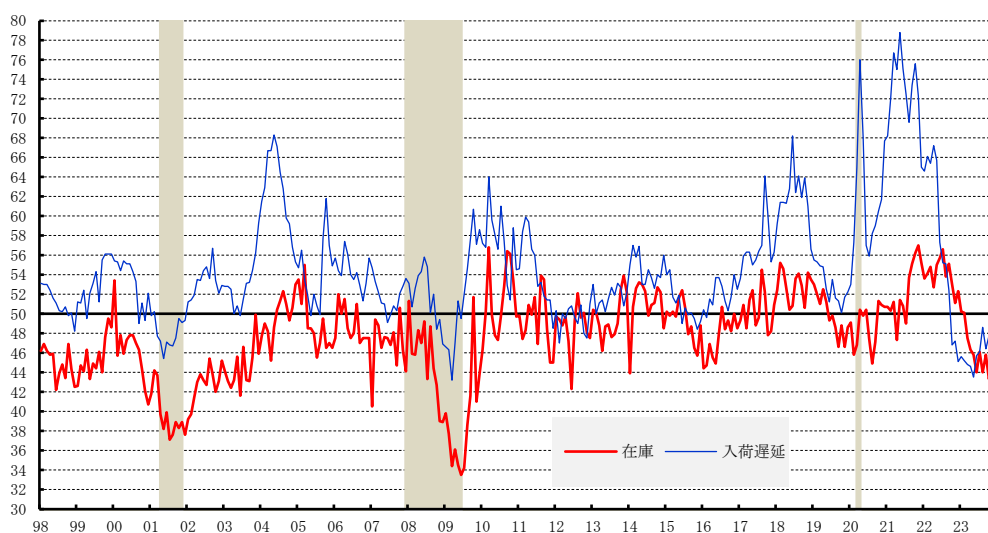
ISM景気指数の推移



(出所) ISM

(注) シャド一部は景気後退期

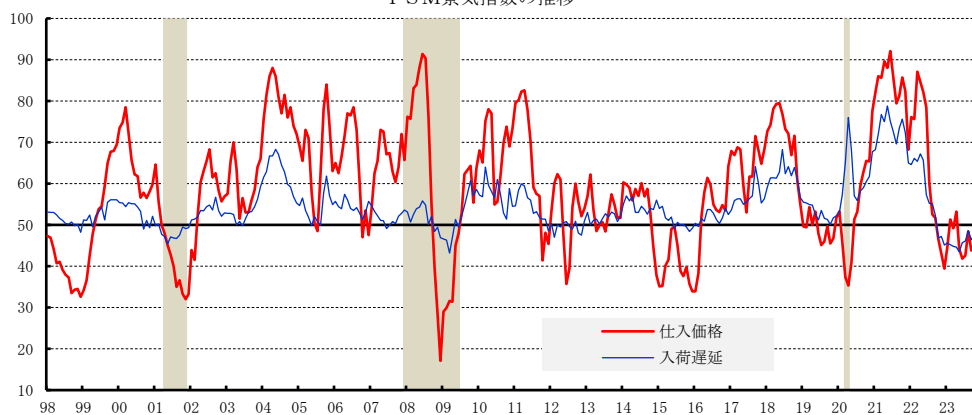
ISM景気指数の推移



(出所) ISM

(注) シャド一部は景気後退期

ISM景気指数の推移



(出所) ISM

(注) シャド一部は景気後退期

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

